

農業土木工事の技術基準の一部改定(令和3年4月1日)

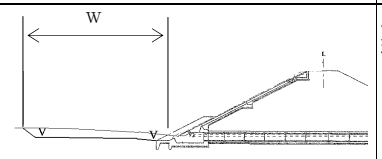
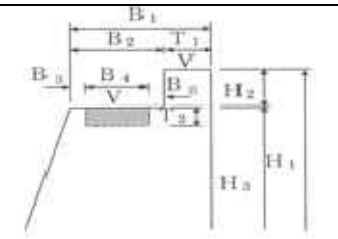
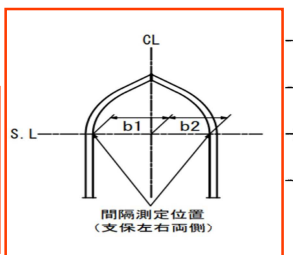
【別紙1】

	基準名	ページ	編章節条枝番	項目等	改定内容	備考
1	農業土木工事出来形管理基準及び規格値	P1-10,1-11	13 水路工編 2 水路トンネル 5 トンネル工	トンネル支保工	・測定項目及び規格値の変更 ・測定基準の追記 ・測定箇所の変更(図例の変更)	別紙2-1
		別表ア～ウ		管水路	・文言の削除及び修正	別紙2-2
2	農業土木工事施工管理の統一事項	P2-13-27		様式集(参考)	・様式の修正 ・補足文の追記	別紙2-3

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
12 ため池編	1 ため池改修	7 浚渫工			浚渫工	基準高 V	±50
						幅 W	設計値以上
						延長 L	設計値以上
13 水路工編	1 水路工	8 分水工			精度を要するもの 分水工計量部 ゲート戸当部 橋台沓部	基準高 V	±30
						厚さ T	±20
						幅 B	±10
						高さ H	±10
						長さ L	±10
13 水路工編	2 水路トンネル	5 トンネル工			トンネル支保工	幅 <del>b</del> —Bタイプ C, Dタイプ b1, b2 B, C, Dタイプ	=0 =40 設計値以上
						間隔 ℓ	±75

※測定項目・規格値の変更

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長40m毎に1箇所割合で測定する。 40m以下は、2箇所測定する。</p>		<p>展開図で管理すること。</p>
<p>構造物の寸法表示箇所を測定する。</p>		
<p>間隔、幅は全基礎について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建て込み直後及び覆工前の2回とする。</p>		<p>破砕帯等の特殊な地山における支保工管理については別途に定めるものとする。 吹付ロックボルト工法の吹付及びロックボルトは、道路トンネル(NATM)を参照する。</p>
<p>支保工幅の測定は、S.L ラインのセンター振り分けで測定する。 支保工間隔は、支保左右両側で測定する。</p>	<p>※測定箇所の変更 (図例の変更)</p>	
<p>※文言の追記</p>		

別表ア 管水路（遠心力鉄筋コンクリート管）のジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

呼び径 (mm)	JIS A 5372 RC管 (B形管)			JIS A 5372 RC管 (NB形管)	
	管理基準値	(参考) 規格値		管理基準値	(参考) 規格値
		8管水路工事 良質地盤	8管水路工事 軟弱地盤		
150	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0
200	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0
250	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0
300	+12 0	+18 0	+10 0	+15 0	+23 0
350	+12 0	+18 0	+10 0	+15 0	+23 0
400	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0
450	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0
500	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0
600	+15 0	+23 0	+13 0	+19 0	+29 0
700	+14 0	+21 0	+12 0	+19 0	+29 0
800	+16 0	+24 0	+13 0	+19 0	+29 0
900	+17 0	+26 0	+15 0	+19 0	+29 0
1,000	+21 0	+32 0	+18 0	—	—
1,100	+22 0	+33 0	+19 0	—	—
1,200	+23 0	+35 0	+21 0	—	—
1,350	+24 0	+37 0	+22 0	—	—

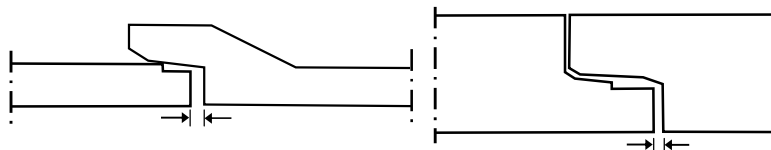
- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所 の平均値とする。  
 2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。  
 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合は、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。  
 なお、「埋戻後」とは、特に指示のない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤)を除いた埋戻完了時点とする。  
 4. 標準値は目地処理のため施工に必要な、本来開くべきジョイント間隔値を示している。規格値及び管理基準値は下図に示す位置を測定するものとする。

5. 管の外側から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示すa'b'e'd'とする。

※削除

〈参考〉ジョイント間隔測定位置を以下に示す。

- (1)内面から計測する場合  
 B形及びNB形



NC形

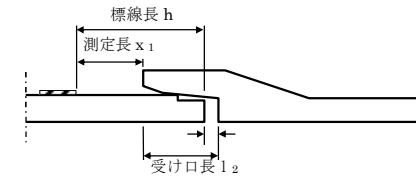
(単位：mm)

呼び径 (mm)	JIS A 5372 RC管 (NC形管)			
	標準値	管理基準値		(参考) 規格値
1,500	5	+24	+5	+33 +5
1,650	5	+24	+5	+33 +5
1,800	5	+24	+5	+33 +5
2,000	5	+24	+5	+33 +5
2,200	5	+24	+5	+33 +5
2,400	5	+27	+5	+38 +5
2,600	5	+27	+5	+38 +5
2,800	5	+27	+5	+38 +5
3,000	5	+27	+5	+38 +5

(2)外面から計測する場合

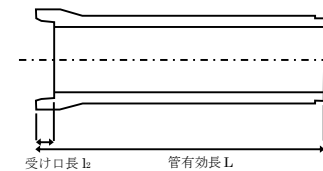
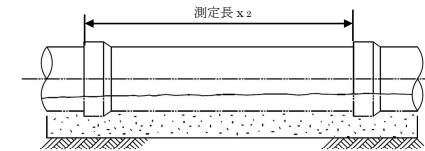
1) 標線による計測

ジョイント間隔 = 受け口長  $l_2$  - (標線長  $h$  - 側線長  $x_1$ )



2) 標線によらない計測 (参考)

ジョイント間隔 = 受け口長  $l_2$  - (管有効長  $L$  - 測定長  $x_2$ )

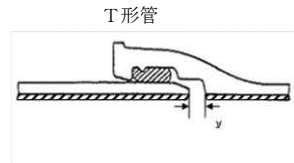
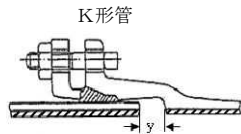


別表イ 管水路（ダクタイル鋳鉄管）ジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

規格	JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027		JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027・1029	
	8 管水路工事 K形		8 管水路工事 T形(直管)	
呼び径(mm)	管理基準値	(参考) 規格値	管理基準値	(参考) 規格値
75	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
100	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
150	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
200	+14 0	+19 0	+10 0	+14 0
250	+14 0	+19 0	+10 0	+14 0
300	+14 0	+19 0	+16 0	+24 0
350	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
400	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
450	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
500	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
600	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
700	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
800	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
900	+22 0	+31 0	+25 0	+40 0
1,000	+25 0	+36 0	+25 0	+40 0
1,100	+25 0	+36 0	+25 0	+40 0
1,200	+25 0	+36 0	+25 0	+50 0
1,350	+25 0	+36 0	+25 0	+50 0
1,500	+25 0	+36 0	+25 0	+60 0
1,600	+25 0	+40 0	+25 0	+70 0
1,650	+25 0	+45 0	+25 0	+70 0
1,800	+25 0	+45 0	+25 0	+80 0
2,000	+25 0	+50 0	+25 0	+90 0
2,100	+25 0	+55 0	— —	— —
2,200	+25 0	+55 0	— —	— —
2,400	+25 0	+60 0	— —	— —
2,600	+25 0	+70 0	— —	— —

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4 箇所の平均値とする。  
 2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4 箇所のうち1 箇所でもこの値を超えてはならない。  
 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm以下の場合は、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 800 mm以上に適用する。  
 なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。  
 4. 管の外側から測定する場合の測定位置は施工管理記録様式に示す「a,b,c,d」とする。  
 5. ダクタイル鋳鉄管のうち、K形管・T形管のジョイント間隔測定位置及びU形管の標準値は下図のy寸法である。yの測定位置は、鋳鉄層とモルタルライニング層の境界部を目安とする。

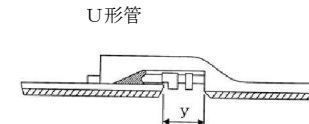


1, 2, 3, 4 ※文言の修正

(単位：mm)

規格	JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027・1029		JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1029		
	8 管水路工事 T形(異形管)		8 管水路工事 U形		
呼び径(mm)	管理基準値	(参考) 規格値	標準値	管理基準値	(参考) 規格値
75	+11 0	+16 0	—	—	—
100	+11 0	+17 0	—	—	—
150	+11 0	+18 0	—	—	—
200	+10 0	+16 0	—	—	—
250	+10 0	+14 0	—	—	—
300	— —	— —	—	—	—
350	— —	— —	—	—	—
400	— —	— —	—	—	—
450	— —	— —	—	—	—
500	— —	— —	—	—	—
600	— —	— —	—	—	—
700	— —	— —	105	+23 - 5	+32 - 5
800	— —	— —	105	+23 - 5	+32 - 5
900	— —	— —	105	+23 - 5	+32 - 5
1,000	— —	— —	105	+23 - 5	+33 - 5
1,100	— —	— —	105	+23 - 5	+33 - 5
1,200	— —	— —	105	+23 - 5	+33 - 5
1,350	— —	— —	105	+23 - 5	+35 - 5
1,500	— —	— —	105	+23 - 5	+35 - 5
1,600	— —	— —	115	+24 - 5	+33 - 5
1,650	— —	— —	115	+24 - 5	+33 - 5
1,800	— —	— —	115	+24 - 5	+33 - 5
2,000	— —	— —	115	+24 - 5	+36 - 5
2,100	— —	— —	115	+24 - 5	+36 - 5
2,200	— —	— —	115	+24 - 5	+36 - 5
2,400	— —	— —	115	+24 - 5	+36 - 5
2,600	— —	— —	130	+24 - 5	+36 - 5

- 注) 6. JDPA G 1027（農業用水用ダクタイル鋳鉄管）の呼び径は以下のとおり。  
 ・ T形及びT形用継ぎ輪：300～2,000、K形：300～2,600  
 JDPA G 1029（推進工法用ダクタイル鋳鉄管）の呼び径は以下のとおり。  
 ・ T形：250～700、U形：800～2,600  
 JDPA G 1027（農業用水用ダクタイル鋳鉄管）のT形用継ぎ輪のジョイント間隔は、JIS G 5527（ダクタイル鋳鉄異形管）のK形に準じる。  
 7. JIS G 5527（ダクタイル鋳鉄異形管）のK形、U形のジョイント間隔は、JIS G 5526（ダクタイル鋳鉄管）のK形、U形に準じる。  
 8. 標準値は継手構造上、本来開くべきジョイント間隔値を示しており、規格値及び管理基準値は標準値に対する値を示している。



別表ウ 管水路（強化プラスチック複合管）ジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

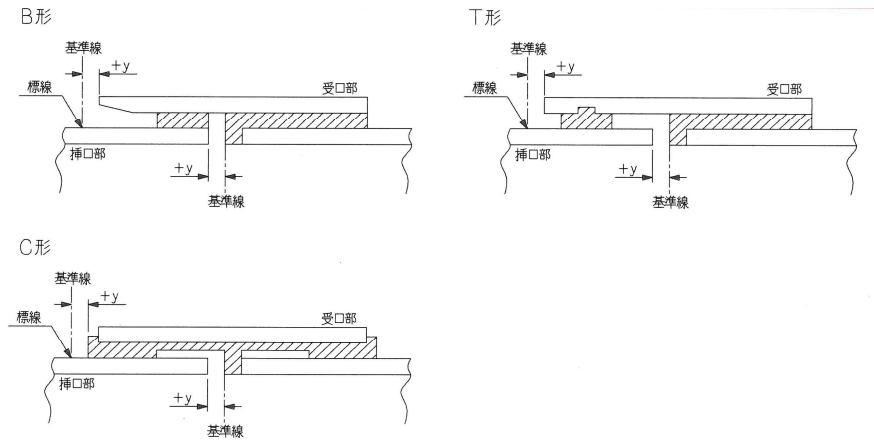
規格	J I S A 5350						
	B 形、C 形 及 び T 形						
	呼び径 (mm)	標準値	管理基準値		(参 考) 規 格 値		
良 質 地 盤					軟 弱 地 盤		
200	0	+10	0	+ 33	0	+22	0
250	0	+10	0	+ 33	0	+22	0
300	0	+10	0	+ 38	0	+25	0
350	0	+10	0	+ 38	0	+25	0
400	0	+10	0	+ 43	0	+28	0
450	0	+10	0	+ 43	0	+28	0
500	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
600	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
700	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
800	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
900	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
1,000	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,100	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,200	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,350	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,500	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,650	0	+25	0	+ 80	0	+53	0
1,800	0	+25	0	+ 80	0	+53	0
2,000	0	+25	0	+ 95	0	+63	0
2,200	0	+25	0	+ 95	0	+63	0
2,400	0	+25	0	+113	0	+75	0
2,600	0	+25	0	+113	0	+75	0
2,800	0	+25	0	+128	0	+85	0
3,000	0	+25	0	+128	0	+85	0

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均値とする。  
 2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。  
 3. 測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm以下の場合、管の外から測定してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 800 mm以上に適用する。  
 なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。

4. 管の外側から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示す a' b' e' d' とする。 ※削除

45. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法 y である。なお、基準線に対し抜け出し側を(+)とする。

56. 測定値は、受口部長さの製品誤差によりマイナスとなる場合がある。



ダクタイル 鋳鉄管 T形 継手 チェックシート						No.
工事名	平成 年度 県営	事業	地区	工区	測定者	

測定位置

測定箇所は、計測できる位置で、対象方向4箇所とする。

施工日	/	/	/	/	/	/	/
測点							
路線名 管種・管径							
略図							
継手 No.							
清掃							
滑剤							
受口溝の確認							

※様式の修正

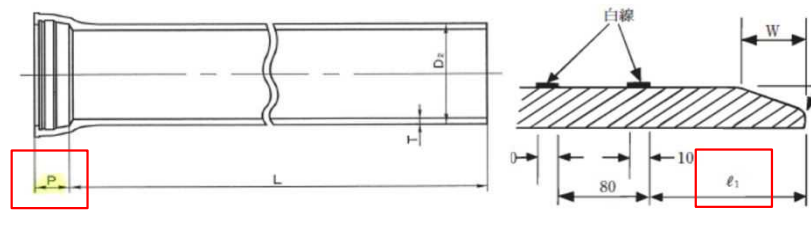
①受口端面- ゴム輪の間隔	規格値						
	1						
	2						
	3						
②受口端面- 白線の間隔	管理基準値 規格値						
	1						
	2						
	3						
	4						
	平均値						
判定							

※① 受口と挿し口のすき間に薄板ゲージを挿し込み、全周にわたりゴム輪が正しい位置にあることを確認すること。  
(一般社団法人 日本ダクタイル鉄管協会が発行している接合要領書(以下「接合要領書」という。)の内容も確認すること。)

※② 管理基準値は、次の値を参考に設定する。  
(注:メーカーが示す製品寸法及び接合要領書の内容も必ず確認すること。)  
最小値:80mm - (P寸法 - l1寸法) 【⇒ y寸法が0mmの状態】  
最大値:最小値+(別表イに示す値の上限値) 【⇒ y寸法が別表イに示す値の上限値の状態】

※補足文の追記

<参考模式図>



<参考> ②受口端面-白線の間隔 管理基準値

呼び径 (mm)	P寸法 (mm)	l1寸法 (mm)	管理基準値 (mm)	
			最小値	最大値
75	84	80	76	87
100	87	80	73	84
150	88	85	77	88
200	105	100	75	85
250	114	110	76	86
300	115	110	75	91
350	130	125	75	91
400	130	125	75	91
450	130	125	75	91
500	135	130	75	95
600	140	135	75	95
700	155	150	75	95